



人間関係調整力の育成

校長 川端 紳之

講師の先生が「自分の目の前に、逆上がりがなかなかできないでいる友達がいるとしたら、その友達に何と言葉をかけますか？」と先生方に問いかけると、「逆上がりの練習がんばっているね。きっと君ならできるよ。」「もう少しでできるよ。一緒に練習しよう。」など近くの先生と会話が始まりました。



これは7月末に行われた清水二中グループ小中一貫教育全体研修会での一場面です。二中グループの軸となる教育活動は「人間関係調整力の育成」と「郷土愛の涵養」です。二中、岡小、浜田小、船越小のおよそ120名の先生方が船越生涯学習交流館に集合し、SST(ソーシャルスキルトレーニング)の研修をしました。

SSTはよりよい人間関係を築くために必要な能力や技術を身につけるトレーニングです。このスキルを活用することで、人間関係を円滑にし、社会性を育てるものです。SSTを活用する場面を設定し、まずは私たち教員自身が温かな言動で人に接した時と、冷たい言動で接した時を体験し、改めてどんな言葉や態度で接することが大切かを考え合いました。

SSTは、「話す・聴く」といった基礎スキル、「謝る・励ます」といった基礎活用スキル、「自分の感情に気づき、コントロールする」感情を扱うスキルなど様々な場面でのコミュニケーションの在り方をスキルとして学びます。なぜそんなことを学ぶ必要があるの？と思われる方がいるかもしれません。確かに私が小学生の頃は、同級生や歳が違う近所の友達と群れて遊ぶ中で、喧嘩をしたり、仲良くなったりしながら、自分の言動を振り返り、自然に相手に応じた適切な言動を身につけていきました。しかし、自分をどのように伝えたいのか、どんな言葉が相手にとってうれしい言葉なのかななどを学ぶ機会が二中グループの子どもたちには必要になっています。

SSTは活用する場面が大切になります。日常生活の中で、よい言動を引き出し、意識して行動できた時には、大いに賞賛し価値づける。そのことによって言動が強化され、次の行動にプラスにつながります。是非ご家庭でもよい言動が見られた時には積極的にプラスの声掛けをお願いします。

9月からは第3ステージ「高めよう」のステージです。スポーツデイや探究学習、日々授業と人と関わりながら学ぶ場があります。あったか言葉やあったか態度でお互いに安心できる人間関係を作りながら、一つ上の自分を目指して仲間と一緒に自分を高めるステージにしていけます。